

授業概要

この授業では、ウィリアム・シェイクスピア(1564-1616)の作品の中から、『ロミオとジュリエット』をとりあげ、原作とアダプテーション作品との比較をしながら、作品の理解を深めていく。古典作品は、それぞれの時代、世界情勢などにより、常に新たな地平を広げながら、読まれ、上演され続けている。原作の時代背景や設定を変えた上演をはじめ、様々な時代の映画（NT ライブなどの劇場上演の映像も含む）、ミュージカル（映画版を含む）、バレエへのアダプテーションなどさまざまなジャンルをとりあげ、幅広い視点で作品の理解を深めていく。

授業計画

第 1 回	イントロダクション：『ロミオとジュリエット』と様々なアダプテーション
第 2 回	パンデミックの時代の『ロミオとジュリエット』
第 3 回	『ロミオとジュリエット』と映画へのアダプテーション①
第 4 回	『ロミオとジュリエット』と映画へのアダプテーション②
第 5 回	『ロミオとジュリエット』と映画へのアダプテーション③
第 6 回	『ロミオとジュリエット』と映画へのアダプテーション④
第 7 回	『ロミオとジュリエット』と王政復古期の改作について
第 8 回	時代設定を変えた上演『ロミオとジュリエット』①
第 9 回	時代設定を変えた上演『ロミオとジュリエット』②
第 10 回	時代設定を変えた上演『ロミオとジュリエット』③
第 11 回	時代設定を変えた上演『ロミオとジュリエット』④
第 12 回	明治時代以降の『ロミオとジュリエット』受容について
第 13 回	『ロミオとジュリエット』とオペラ作品
第 14 回	『ロミオとジュリエット』とバレエ作品
第 15 回	これまでのまとめとフィードバック
第 16 回	

到達目標

古典文学作品の持つ可能性をさまざまな観点からより深く理解するため、以下のことを目標とする。

- ・古典作品の成立過程の歴史的背景や文化的背景を理解できる。
- ・戯曲の台詞をさまざまなコンテクストに即して読むことができる。
- ・作品が上演された時代についての知識を得ることができる。
- ・古典作品が現代において上演される際の演出可能性を理解できる。
- ・古典作品の改作が上演される際の様々なジャンルを理解できる。

履修上の注意

講義科目ではあるが、文学作品の読み方を身につけ、自分で読むという意味では、実習科目である。授業で使用するテキストは、翻訳を購入すること。また、授業中の携帯電話、スマートフォンなどの使用は厳禁とする。

予習・復習

予習として、テキストとして購入した翻訳を、丁寧に読むこと。また、復習として、授業で学んだことを活かして再読すること。またセリフは音読してみるとよい。さらに、授業で取り上げた毎回のテーマについて、自ら調べ、理解を深めるよう復習してほしい。

評価方法

予習復習の程度、授業への参加度、リアクション・ペーパー、確認テストなどを点数化し、学期末の筆記試験と合わせて、総合的に評価する。学期末試験 50%、各種課題 25%、授業への取り組み 25%。

テキスト

- ・教科書名：『ロミオとジュリエット』
 - ・著者名：シェイクスピア著、松岡和子訳
 - ・出版社名：ちくま文庫
 - ・出版年 (ISBN)：ISBN:4-480-03302-5
- 参考図書については、授業中に、随時指示する。